



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第35号

発行：レムナントキリスト教会

価格：100円（送料込みで200円）

【目次】

- ◎ 聖書からのメッセージ：「御子が神を説き明かす」エレミヤ
- ◎ 聖書と日本「茶の湯」
- ◎ イエス・キリストに出会う「病の息子の父親とイエス」
- ◎ キリストを信じた体験談「プレゼント」by S
- ◎ 聖書に関する有名人のことば：A. フレミング
- ◎ 聖書贈呈

＜聖書からのメッセージ＞

「御子が神を説き明かす」by エレミヤ

本日は「御子が神を説き明かす」という題でメッセージしたいと思います。テキストは以下の箇所です。

ヨハネ1:18 いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである

聖書はその始めのページから神について書いています。いいえ、最初のページだけでなく、聖書はその多くのページの中で、神について語っています。もし聖書の記述が正しく、私たち人間は神によって創造されたものであるとするなら、ところで神という方はどのような方なのでしょう？キリスト教に限らず、あらゆる国、あらゆる人が神について語ります。アジア、アフリカ、それぞれの地域、国で、それぞれの神の定義があるように思えます。たとえば、日本では八百万の神ということで、この国には800万もの神がいること

になっています。それぞれの民族、民にそれぞれの神の定義があります。

それでは、いったい神様とは正確にはどのような方なのでしょう？このような私たちの思い、想像に対して聖書は、「いまだかつて神を見た者はいない」ことを語ります。すなわち、実際に神を見て、親しく知っている者はいないことを語るのです。ですから、多くの人の神に対する意見や主張や、定義はみな、実際に神を見て知ったうえで語っているわけでない、自分の想像や思い込みで語られている可能性があるのです。何故なら、いまだかつて神を見た者はいないからです。

昔のヨーロッパの人でマルコ・ポーロという人がいます。彼はヨーロッパからは遠い地域である東方、すなわちアジア方面に旅行し、中国にまで来ました。そして彼の旅行の経験を「東方見聞録」という本に書いたのです。その中に、アジアの島国ジパングに関して彼は書いています。

「御子が神を説き明かす」by エレミヤ

ジパングは、黄金の国であり、人々は金の家に住んでいる、と書かれているのです。ジパングとはジャパン、すなわち、日本のことです。彼の書いた本は興味深いのですが、残念ながら、ジパング、日本に関する記述は間違っています。我々日本人は、金の家になど住んでいないからです。

何故彼は間違えてしまったのか？その理由は彼は実際の日本に自分の足を踏み入れ、自分の目で見ることなく、他の人からの伝聞や噂に基づいて彼の本を書いたからなのです。

さて、これはジパングに関する話なのですが、神についても話は同じです。多くの人が神に関して語り、論議するかもしれませんが、それは的外れだったり、実際の神とは異なった話や想像である可能性があります。何故なら、「いまだかつて神を見たものはいない」からです。

さて、ここで話を終わると誰も神を見たことはないのだから、神のことなどわからなくてもしかたない、という結論になってしまいます。しかし、上記テキストは以下の様に続きます。

「父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである」

すなわち例外があり、神のひとり子といわれるイエス・キリストはこの神を見た方であり、彼を通して神の正しい姿、思い、存在、性格が語られ、説明されると聖書は語るのです。

ですので、私たちはこのキリストのことばに耳を傾けるべきです。何故なら、イエスキリストこそは、神を見、唯一正しく神を知る方だからです。ですから我々はキリストが神に関して語ることばに耳を傾けるべきなのです。この方の語ることばを通して、想像ではなく、実際の神という方を理解することができるからなのです。

このイエスから聞いた弟子、イエスから愛された弟子であるヨハネは、この神に関してこのように表現しています。

ヨハネ3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ここでは、「神は、実に..世を愛された」として、神が世を愛し、世に住む我々を愛したことが語られています。ですからこのことばが正しいのです。神は人を憎んでいるのではないか、悪意を持っているのではないか、との意見もあるかもしれませんが、そうではありません。キリストのことばが正しく、聖書の言う「神は..世を愛された」とのことばが正しいのです。

その上、聖書はことばを続けて「実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された」と書きます。自分のたったひとりの子であるキリストを与え、犠牲にするほど、世を愛したことが書かれているのです。素朴な疑問として何故神は自分の大切なひとり子を犠牲にしたのでしょうか？これが本当のことであるなら、あまりにも、大きな損害、悲しみ、犠牲ではないのでしょうか？

そのことと関連して聖書は、「それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」と語ります。それは我々の永遠の命に関することであり、我々の罪が解決されず死後、火の池に入る、永遠の滅びにはいらなため、という非常に深刻な事態のゆえであることを語ります。ですので我々は知るべきです。これらの聖書のことばは正しく、我々がもし、自分の罪を解決せず、永遠の命を受けないまま死を迎えるなら、死後のつひきならない、深刻な事態に陥る、ということを経験すべきなのです。

「御子が神を説き明かす」by エレミヤ

神がこのような大きな犠牲を払った、ということはいわゆる我々は自分の思惑と異なり実は非常に深刻な事態に直面している可能性が高いのです。

のっぴきならない事態ということでこんな例があります。自分のことで恐縮ですが、私自身の経験です。私は以前東京の清瀬というところに住んでいました。家族四人です。ある日、私が一人で部屋にいた時、突然腹痛が起きました。以前経験したことのない痛みでした。まだ、若く30代位だったのですが、痛みで歩くことができず、電話のある部屋まで這って行きました。何とか、手を伸ばし、119番へ電話しました。ほどなくして、救急車が到着し、私は近くの病院へ運び込まれました。病院でお医者さんが診察してくれたのですが、どうも原因がわからないようで少し時間がかかりました。私は痛みがひどいので、何とかして欲しいと、苦痛を訴えました。それで、鎮痛剤を打ってもらったようで、薬がきき、私はしばらく病院のベッドで眠っていました。だいぶ時間がたち、私の痛みの原因がわかりました。その日の夕方でしょうか、若いお医者さんが私の寝ているベッドの部屋に入ってきて、こういいました。「x xさん。検査した結果、あなたは急性盲腸炎であることがわかりました。今すぐ手術すべきなのですが、手術に同意しますか？」そのように聞かれたのです。

私は今までの生涯で過去一度も手術はしたことがありませんでした。また正直、からだにメスを入れる、ということをごらなかとと躊躇するタイプです。ですので普通のときにこういわれてもすぐ「はい」とは返事をしないタイプの人間です。少なくとも返事をする前にしばらくは考えるタイプです。

しかし、この時は違っていました。どうにもならない痛みを何とか我慢していましたし、自分の体の状況がにっちもさっちもいかない状況であることをよく知っていたのです。すなわち、のっぴきならない事態だったのです。それで、その時は即答して「お願いします」

と間髪をいれず答えました。その後手術を行っていただき1、2週間の入院のあと、無事に退院できました。おかげで助かったわけでは

私は普段の健康なときや、からだに問題ない時には手術を決して望むタイプではないのですが、その時はそれこそこのっぴきならないときだったのですぐOKと返事しました。また手術を行い、炎症を起こしている盲腸を取り去らない限り、自分の体が大変なことになることがよくわかったので、一にも二もなく手術に賛成したのです。そうです、のっぴきならない状況で、これしか命が助かる方法がなかったからOKしたのです。

このような例でわかるかどうかわかりませんが、聖書が私たちの罪を解決するため「神のひとり子の命を犠牲にした」というとき、その裏には我々の身近にのっぴきならない危険や問題が近づいているから、という理由があることを理解してください。またこれしか方法がない唯一無二の方法であることをも。

聖書の言う死後の裁きとか我々が自分の罪を解決せずに死後神の前に出る、ということは我々が思っているより、想像するよりも、大いにのっぴきならない事態なのです。そうです、私たちは我々が思っている以上に深刻な事態に直面しているのです。そして、聖書を読む限り、この方法しかないので、神はあえて、「キリストの命を犠牲にする」という極端な方法をもって我々に解決の道を用意されたのです。そうです。神は我々を憎んでいてではなく、このように我々に最善の道を用意されている方なのです。このことを知しましょう。以上



病院

聖書と日本「茶の湯」

茶の湯、茶道は、戦国時代時代から安土桃山時代にかけて、千利休によって確立された日本を代表する文化の一つです。当時の国際都市であった大阪・堺の商人の千利休は、キリスト教の宣教師たちとの交流も多くあったようです。利休はキリシタンではなかったようですが利休の家族はキリシタンであったと言われています。また、利休の弟子で利休七哲と呼ばれる高名な弟子の多くはキリシタンか、もしくはキリシタンの理解者でした。弟子の中で特に有名なのは、キリシタン大名である高山右近です。こうしてみるだけでも、茶道にはキリスト教の影響が大いにあったのではないかと想像できます。

茶室には「躡り口」と言う2尺ほどの小さな出入口があります。ここから茶室に入りますが、非常に小さいため身がかがめてはいたなくてはなりません。また、武士であっても、刀を帯同することは許されておらず、身一つで茶室に入る事とされていました。これらのことも、聖書の御言葉と深い関係があるのではないかとされています。

たとえ身分の高い武士であったとしても茶室においては、この世の身分は全く関係ないとされていました。同じく神様の前にはこの世の身分は全く関係ありません。また、茶室に入る時に、刀を持たず身一つで入るということも**第一テモテ6：7**で「**私たちは何一つこの世に持ってこなかったし、また何一つもってでることのできません。**」とあるように、天国には、地上のものを何も持たずに入ることに通じています。

また、躡り口と言う狭い入口は、身を小さくしなくては入れません。**マタイ7：13**「**狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。**」とあります。躡り口はまさに狭い門です。また、高ぶる者は天の御国には入れません。**第一ペテロ4：5**で「**みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。**」とあります。神の前に謙遜な人が恵みを受け天国に入れるのです。

茶室の狭い躡り口で身を低くしてへりくだって入るといふ姿勢も非常に聖書的です。これもまさに聖書の教えを再現していると言われています。

また、おなじ茶碗の同じ飲み口から、皆が同じ茶を回して飲むという濃茶の作法は、当時の宣教師が行っていたキリスト教の聖餐式の葡萄酒を同じ器で回して飲むというものに非常に似ており、キリスト教の影響があるのではないかとされています。

そして形式だけではなく、心においても茶道の中にはキリスト教的な教えがあります。相手のことを思いやりもてなしていく茶道の心づかい、もてなしの心は、非常に聖書的です。

ルカ6：31で「**自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。**」、マルコ12：31で「**あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。**」とイエスは言われています。まさにお互いのことを思いやり、茶をたてるという茶道の心は聖書の言う、互いに愛し合う愛の姿勢を体現しています。イエスが言われた相手にたいする愛の姿勢が、茶道にも流れているのです。

このように、茶道と言う日本の誇るべき伝統文化が、聖書的であり、キリストの愛に通じているというのは不思議であり、非常に素晴らしいことではないでしょうか。



茶室

イエス・キリストに出会う「病の息子の父親とイエス」

イエスキリストは2000年ほど前イスラエルに救い主として来られました。その当時の人々は実際のイエスと会うことができました。今は聖書を通してイエスに出会うことができます。

マルコ9；20～24

そこで、人々は、イエスのところにその子を連れてきた。その子がイエスを見ると、霊はすぐに彼をひきつけさせたので、彼は、地面に倒れ、あわを吹きながら、ころげ回った。

イエスはその子の父親に尋ねられた。「この子がこんなになってから、どのくらいになりますか。」父親は言った。「幼い時からです。この霊は、彼を滅ぼそうとして、何度も火の中や水の中に投げ込みました。ただ、もし、おできになるものなら、私たちをあわれんで、お助けください。」

するとイエスは言われた。「できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」

するとすぐに、その子の父は、叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」

イエスのところには、たえず多くの病を抱えた人々が助けを求めて集まり、群衆もイエスを見ようとして詰めかけていました。そのなかに、口をきけなくする霊につかれた病の息子を持つ父親がいました。その父親はイエスがその場におられなかったため、イエスの弟子に息子のいやしを願ったのですが、弟子達はその子を癒すことができませんでした。そこで父親は、弟子のところに戻られたイエスに癒しを願います。イエスは父親に質問されました。イエスは、全部ご存知であり状況を聞く必要はなかったのです。では、なぜそうされたのでしょうか？父親には大きな問題がありました。主イエスは個人的に話をすることにより、彼自身の問題を自ら悟るようにされたのです。

父親は息子が幼い時から悪い霊によって苦しめられ危険な状況が絶えずあったこと、もしできるものなら助けてほしい、と話します。イエスに「できるものなら」と言っています。彼はイエスに対して100%信頼していたわけで

はありませんでした。神の力を信じず、疑っていたのです。イエスは彼に対して、「できるものなら、というのか。信じる者にはどんなことでもできるのです。」と彼の不信仰を指摘されました。イエスを信じないという大きな問題を悟った父親は「信じます。不信仰な私をお助けください。」と叫びます。彼は悔い改め、助けを求めたのです。彼の信じる心を見て、イエスは、彼の息子の中にある汚れた霊を叱って、追い出されました。「するとその霊は、叫び声をあげ、その子を激しくひきつけさせて、出て行った。するとその子が死人のようになったので、多くの人々が、「この子は死んでしまった」と言った。しかし、イエスは彼の手を取って起こされた。するとその子は立ち上がった。(マルコ9；26～27)と、あります。

イエスによって彼の息子は完全に癒されたのです。父親自身がイエスを完全に信じた時に、神の力が働きました。このようにイエスを完全に信頼したものは、神の力が働くのです。イエスは、神に信頼する心を求めておられます。イエスは、病の息子を弟子が癒せないで騒いでいる人々を見た時、「ああ、不信仰な世だ。いつまであなたがたといっしょにいななければならないのでしょうか。いつまであなたがたにがまんしていなければならないのでしょうか。」(マルコ9：19)と、人々の信じない心を嘆かれました。イエスは不信仰を嘆かれるのです。ヤコブ1：6～7で「ただし少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。そういう人は、主から何かをいただけたらと思ってはなりません。」神にはどんなことでもできるのです。ただ信じない者は何にも得られません。イエスの信じる信仰こそが私たちの希望なのです。



悪霊を追い出すイエス

キリストを信じた体験談「プレゼント」 by S

数ヶ月前のことですが・・・以前ある方から素敵なプレゼントをいただきました。めったにお会いしない方なのですが、たまたまお会いする機会があって、その時に、「これ、あげる。」とおっしゃってくださったので、「ありがとうございます」と言って受け取りました。

それから数日後、心の内側に「いずれ何かお返ししたほうがいいのでは？」という思いがきました。けれども、いつその人にお会いできるか分からないし、連絡先も聞いていなかったもので、どうしたらよいものか？と思い、そして祈ってみました。するとほどなくして、「その人への贈り物を買いに〇〇のお店に行って買いなさい」という語りかけを心に受けました。一瞬、「へえっ？本当？」と思いました。しかも、「なるべく早めに」という語りかけが心にきました。とは言っても、「嘘？もう会えないかも知れないのに・・・しかも住所も分からないから送ることもできないし・・・」と心の中で理屈をこねていました。

さらに一、二週間が経ち、その日は外出したのですが、その時に「今日買いなさい」という語りかけを受けました。本当に神さまが語ったのだろうか？しかし、もしそうだとしたら・・・と半信半疑ではありましたが、思い切って神さまが勧めてくださったお店に向かって商品を買いました。するとその直後、その人にバツタリお会いしたのです。一瞬、夢を見ているのかと思って目を疑ったのですが、間違いなく、本人だったのです。思わず、「お元気ですか？」と声を掛けて、そして「よろしければ、これ受け取ってください」と言って、渡すことができました。そうしたら、とても喜んでくださいました。

この出来事は、今思い返してもとても不思議だなあと思いました。そもそもその人とは数回しかお会いしたことはありませんし、仲は良いものの、だからと言ってとても親しい関係でもありませんし、けれども神さまにこのような語りかけをいただき、実際に渡せたのは、なんとも不思議ですし、うーん？と考えさせられる一件の出来事でした。でも、まずはその人にお返ししようという思いがきて、それから神さまに祈って

キリストを信じた体験談「プレゼント」 by S

語りかけを受けたことでしたので、きっと神さまのお計らいだったのでは？と思います。はじめは自分から出たことのように思っていたのですが、しかし、じつははじめから終わりまで全て神さまから発したことなのでは？と、今ではそのように素直に受け止めています。そして、全てのことを導いてくださった神さまに心から感謝です！主の御名をほめたたえます！さいごにみことばを読んで終わりにしたいと思います。

新約聖書〔新改訳〕：詩篇

68:24 神よ。人々は、あなたの行列を見ました。聖所でわが王わが神の行列を。

68:25 歌う者が先に立ち、楽人があとになり、その間にタンバリンを鳴らしておとめらが行く。

68:26 「相つどうて、神をほめたたえよ。イスラエルの泉から出た者よ。主をほめたたえよ。」

68:27 そこには、彼らを導く末子のベニヤミンがおり、その群れの中にはユダの君主たち、ゼブルンの君主たち、ナフタリの君主たちもいる。

68:28 神よ。御力を奮い起こしてください。私たちのために、事を行なわれた神よ。御力を示してください。

68:29 エルサレムにあるあなたの宮のた

めに、王たちは、あなたに贈り物を持って来ましょう。

68:30 葦の中の獣、それに、国々の民の子牛とともにいる雄牛の群れを、叱ってください。銀の品々を踏み汚す戦いを喜ぶ、国々の民を散らしてください。

68:31 使節らはエジプトから来、クシュはその手を神に向かって急いで差し伸ばす。

68:32 この世の王国よ。神に向かって歌え。主に、ほめ歌を歌え。セラ

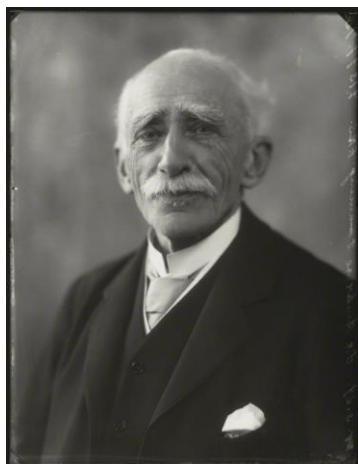
68:33 昔から、いと高き天に乗っておられる方に向かい、ほめ歌を歌え。聞け。神は御声を発せられる。力強い声を。



プレゼント

聖書に関する有名人のことは :

A. フレミング(イギリスの電気技術者、発明家、フレミングの法則で有名)



我々は不確かなそして、常に変化する科学などの砂上に立つべきではない、むしろ靈感された聖書という岩の土台に立つべきである。

<お知らせコーナー>

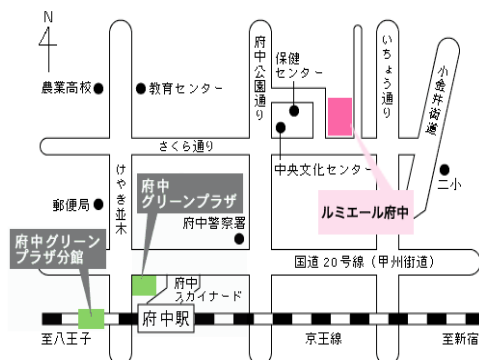
●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com



★ 教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>